

ページ	正	誤
<p>P79 下から15行目</p> <p>下から7行目</p>	<p>例題 2.1 (士) (士類題)</p> <p>ある基準点測量で測距の許容誤差を測線長 300 m に対し、±1.5 cm 以内として計画した。測距と測角の精度を同等にするには、測角の許容誤差はいくらにすればよいか。</p> <p>ただし、$\rho'' = 2'' \times 10^5$とする。</p> <p>例題 2.2 基準点測量において、角を±4"，距離を 1/10,000 の精度で観測した。両者の観測量に重みをつけるとしたら、角の重みと距離の重みとの比はいくらにしたらよいか。もっとも適当なものを次の中から選べ。</p> <p>1. 1 : 0.02 2. 1 : 25.0 3. 1 : 0.04 4. 1 : 5.0</p> <p>ただし、$\rho'' = 2'' \times 10^5$とする。</p>	<p>例題 2.1 (士) (士類題)</p> <p>ある基準点測量で測距の許容誤差を測線長 300 m に対し、±1.5 cm 以内として計画した。測距と測角の精度を同等にするには、測角の許容誤差はいくらにすればよいか。</p> <p>ただし、$\rho'' = 2'' \times 10^{-5}$とする。</p> <p>例題 2.2 基準点測量において、角を±4"，距離を 1/10,000 の精度で観測した。両者の観測量に重みをつけるとしたら、角の重みと距離の重みとの比はいくらにしたらよいか。もっとも適当なものを次の中から選べ。</p> <p>1. 1 : 0.02 2. 1 : 25.0 3. 1 : 0.04 4. 1 : 5.0</p> <p>ただし、$\rho'' = 2'' \times 10^{-5}$とする。</p>

P470 頁最下部 表中

●条件点の較差の許容範囲は、次表を標準とする。
誤)

区分 距離	平地	山地	備考
30m 未満	10mm	15mm	点検距離が測定できる場合、Sは座標差から求めた距離とする。
30m 以上	S/3,000	S/2,000	点間距離が測定できない場合、Sは既知点又は既知点から条件点までの距離のうち短い方とする。

正)

区分 距離	平地	山地	備考
30m 未満	10mm	15mm	点間距離が測定できる場合、Sは座標差から求めた距離とする。
30m 以上	S/3,000	S/2,000	点間距離が測定できない場合、Sは既知点又は既設点から条件点までの距離のうち短い方とする。

P495 頁最下部 表中

●中心点の較差の許容範囲は、次表を標準とする。
誤)

区分 距離	平地	山地	備考
20m 未満	10mm	<u>15mm</u>	点検距離が測定できる場合、Sは座標差から求めた距離とする。
20m 以上	S/2,000	S/1,000	点間距離が測定できない場合、Sは既知点又は既知点から中心点までの距離のうち短い方とする。

正)

区分 距離	平地	山地	備考
20m 未満	10mm	20mm	点間距離が測定できる場合、Sは座標差から求めた距離とする。
20m 以上	S/2,000	S/1,000	点間距離が測定できない場合、Sは既知点又は既設点から中心点等までの距離のうち短い方とする。

●境界点間測定の較差の許容範囲は、次表を標準とする。

誤)

区分 距離	平地	山地	備考
20m 未満	10mm	<u>15mm</u>	点検距離が測定できる場合、S は座標差から求めた距離とする。
20m 以上	S/2,000	S/1,000	点間距離が測定できない場合、S は既知点又は <u>既知点</u> から <u>中心点</u> までの距離のうち短い方とする。

正)

区分 距離	平地	山地	備考
20m 未満	10mm	20mm	点間距離が測定できる場合、S は座標差から求めた距離とする。
20m 以上	S/2,000	S/1,000	点間距離が測定できない場合、S は既知点又は 既設点 から 用地境界点 までの距離のうち短い方とする。

測量士・測量士補
国家試験受験テキスト vol26 正誤表

令和8年5月13日

頁	正	誤
P.149 9行目	ロ) 短縮スタティック法は スタティック法 と～	ロ) 短縮スタティック法は <u>線スタティック法</u> と～